



## [事務局からのお知らせ]

### 彙報

#### ◎新入会員の紹介について

学会への入会は、通常会員または国外会員1名の紹介により、定例理事会(年2回、5月と10月に開催)において審議・決定し、評議員会において承認された後、初年度の会費納入を以て、会員資格が発効します。

入会資格は、文学・語学、哲学・思想他、中国に関連する諸領域の教育・研究に従事する者、またこれらの領域を専攻した大学等の卒業生となっています。

入会申し込みは、日本中国学会HP (<http://www.soc.nii.ac.jp/ssj3/index.html>)にある書式をプリントアウトの上、

学会事務局宛(〒113-0034 文京区湯島1-4-25 斯文会館内)にご郵送ください。本年度5月分の申し込みは5月1日(土)必着、10月分は10月1日(金)必着でお願いします。

毎年多くの住所不明者が発生しております。入会后、転居・所属変更(留学生の場合は帰国)の際には速やかに事務局まで届け出るよう助言の労をお取りください。ご紹介者に照会させていただくこともございますので、その旨ご了承ください。

#### ◎会費の納入について

会費が未納となっている方は、至急送金願います。2カ年にわたって会費が未納となりますと、『学会報』が送付されません。さらに4年間滞納の会員は除名になりますので、ご注意ください。(郵便振替口座:00160-9-89927)

# 2010年度初めに当たって——ご挨拶とご報告

理事長 池田 知久

## 平成22(2010)年度初めのご挨拶

花と緑の4月を迎え、いよいよ新しい年度がスタートいたしました。今年度はいくらか多数の新入会員をお迎えしておりますが、それらの方々を始めとして、会員のみなさまには、また気持ちを新たにして教学生活を開始されたことと思います。

私にとっても、2期目の理事長職の最後の1年に入ることになりました。この3年間は、中国研究、ひいては東洋学・アジア研究をとりまく環境が厳しさを増す時期でありましたが、4年目の今年度もその厳しさに変わりはないと覚悟を決めております。会員のみなさまのご協力を切にお願いするゆえんであります。

こうした環境の厳しさに対しては、これを克服するというような大それた目的を掲げることはなかなかできませんが、しかしそれでもこれに対処するために、我が日本中国学会はこの3年間、種々様々の方策を模索してまいりました。その背景には、多くの会員の間に、中国研究をとりまく環境が厳しさを増しているという危機感の共有がありました。

諸方策の内容が具体的にはどのようなものであるかについては、近年の本誌『日本中国学会便り』の各号に掲載された「理事長挨拶」や「各種委員会報告」などに、提案・計画・取り組みの経過などが報告されていますので、それらをご覧くださいければ幸いです。こういった種々様々の方策の内、多くの会員のコンセンサスを得られるものから実施に移していくということが、今後の課題になるのではないかと思います。

その諸方策の1つに、現在の我が日本中国学会の中国研究、ひいては現代日本の中国研究を、積極的に世界に向かって発信していくということがあります。その中のほんの1つの具体的事例ではありますが、我が日本中国学会と中国の上海師範大学との連携によって、『日本中国学会報』受賞論文集(哲学部門)を中国において中国語で出版する、という計

画を推し進めてまいりました。この計画の推進が、今日ほぼ最終段階に差しかかっておりますので、以下、この件についてご報告いたします。

## 上海師大との連携による『日本中国学会報』受賞論文集(中国哲学)の出版

本学会と上海師範大学の研究プロジェクト「海外中国哲学論叢」との連携による、『日本中国学会報』学会賞受賞論文(哲学部門)の、中国語の翻訳と中国国内における論文集の出版計画については、背景や途中経過を本誌『便り』2008年12月号・2009年12月号でご報告いたしました。また、その前後の経過については、2008年5月の理事会以来、毎回の理事会において、および2008年・2009年の両大会時の評議員会においてご報告し、そこで承認された内容を、両総会においてもご報告いたしました。

出版・刊行の日が間近かに迫ってまいりましたので、その後の経過の中で重要と思われる事項を、あらためて整理いたしました。(すでに報告済みの事項は省略いたします。詳細については、本誌『便り』2008年12月号・2009年12月号をご覧ください。)

### 【1】日本中国学会と上海師範大学との協定書

2008年11月7日、双方によって協定書原案を作成。2009年3月初旬、協定書文案を確定。2009年3月28日、日本中国学会理事会で協定書を承認。

### 【2】『日本中国学会報』受賞論文(哲学部門)

#### 22篇の手交

2008年11月7日、PDF版の22篇論文を池田が上海師範大学に手渡した。

### 【3】翻訳者の決定と翻訳の開始

2008年12月までに上海師範大学側の翻訳者13名が決定、その中心学者は曹峰教授(清華大学)である。2009年1月から翻訳を開始。

### 【4】論文の中国語翻訳原稿の到着と著者校正

2009年8月20日、最初の10篇の翻訳原稿が池

田のところに到着。2009年11月27日、最後の1篇の翻訳原稿が到着。2009年8月20日より著者校正を開始。2009年12月25日、著者校正が完了。

**[5] 書名・出版社・発行年月・発行部数など（予定）**  
 書名（仮題）は《日本学者论中国哲学史》。出版社は華東師範大学出版社。発行年月は2010年5月31日より前に発行したいとのこと。発行部数は2000冊～3000冊（市場調査によっては変更がありうる）。総字数は40万字、定価は38元～48元（未定、市場調査によって決まる）。抜刷はなし、献本は著者22名に各2冊、それ以上の冊数をご希望の著者には割引がある。

### 《日本学者论中国哲学史》(仮題)の掲載論文

日本中国学会賞を受賞した哲学部門27篇の論文の内、この計画のために「同意書」を提出して下さった会員の論文は、以下のとおり。

- 1971年 鈴木喜一 孔子の知識論
- 1972年 三浦國雄 資治通鑑考
- 1974年 後藤延子 康有為と孔教—その思想史的意義—
- 1975年 佐野公治 明代前半期の思想動向
- 1978年 内山俊彦 孟子における天と人—自然観と政治思想との関連に触れて—
- 1979年 中嶋隆蔵 蕭子良の精神生活
- 1980年 宇佐美一博 董仲舒の政治思想—君主権の強化と抑制をめぐって—
- 1981年 砂山稔 成玄英の思想について—重玄と無為を中心として—
- 1982年 土田健次郎 楊時の立場
- 1983年 浅野裕一 墨家集団の質的变化—説話類の意味するもの—
- 1984年 近藤則之 左伝の成立に関する新視点—礼理論の再評価を通じて—
- 1986年 間嶋潤一 鄭玄の『魯礼禘禘義』の構造とその意義
- 1987年 谷中信一 『逸周書』の思想と成立について—齊學術の一側面の考察—
- 1995年 吾妻重二 太極図の形成—儒仏道

- 三教をめぐる再検討—
- 1996年 垣内景子 朱熹の「敬」についての一考察
- 1997年 井川義次 十七世紀イエズス会士の『易』解釈—『中国の哲学者孔子』の「謙」卦をめぐる有神論性の主張—
- 1999年 表野和江 明末呉興凌氏刻書活動考—凌濛初と出版—
- 2000年 南部英彦 前漢後期の宗廟制論議等を通して見たる儒教国教化—その親親・尊尊主義の分析を軸として—
- 2001年 辛賢 『太玄』の「首」と「賛」について
- 2002年 内山直樹 漢代における序文の体例—『説文解字』叙「叙曰」の解釈を中心に—
- 2005年 工藤卓司 『賈誼新書』の諸侯王対策
- 2007年 白井順 『朱子訓蒙絶句』は如何に読まれたか—朱子学の普及と伝播の一側面—

### 《日本学者论中国哲学史》に寄せた序文《致中国读者》

本論文集に、池田は日本中国学会を代表して序文を寄せましたが、以下、参考までにそれを掲げておきます（訳者は曹峰教授）。

本书是日本中国学会和上海师范大学共同合作的产物,合作的内容是将刊载于日本中国学会学术杂志《日本中国学会报》上的部分获奖论文(中国哲学领域)加以翻译和出版。

具体而言,作为这项国际学术合作的当事者,一方是上海师范大学哲学系“上海师范大学中国哲学创新团体”(负责人方旭东教授)、另一方是日本研究中国文化的学会中规模最大的日本中国学会(代表者池田知久)。如果没有双方牢固而密切的合作,此书是不可能出版的。从这个意义上讲,我对上海师范大学以方旭东教授为代表的各位先生的崭新创意、高远见识,同时,对日本中国学会各位理事以及各位作者的深切理解、热情支持,表示衷心的感谢。

本书内容,是获得“日本中国学会奖”的、从广义上对中国哲学展开研究的论文集。其中包括在本学会《日本中国学会报》第22集(1971年)~第58集(2007年)上刊登的、每年一篇获奖的优秀论文。虽然这些都是代表现代日本中国哲学研究高水平的优秀论文,但在刊登、获奖当时,作者们都还比较年轻,这是一个显著特征。

2008年3月,上海师范大学哲学系方旭东教授,通过当时山东大学文史哲研究院曹峰教授(现任清华大学教授),向我提出了以下的要求。作为方旭东教授所负责公共研究项目“海外中国哲学论丛”的重要一环,计划出版“海外中国哲学论丛系列论文集”,因此,希望能够翻译、出版《日本中国学会报》上刊登的优秀论文。于是,我在2008年5月的日本中国学会理事会上呈请理事们予以审议。其结果是,本学会接受这项请求,愿意和上海师范大学合作。理事们就以下结论达成一致,将《学会报》获奖论文中,与中国思想、哲学领域相关的、第一次(1970年)到最近一次(第38次,2007年)的全部获奖论文,作为日本中国学会中国哲学研究中具有代表性、高水准的论文,向中国推荐。

中国思想、哲学领域获奖论文合计27篇,其中除去已经过世的3人,本会向余下24篇的所有作者发去了征求项目同意书,到2008年10月已有22篇作者寄回了同意书。就这样正式启动了本书的翻译和出版。之后,我于2008年11月起上海师范大学,和方旭东教授一起制作了双方“协议书”(合约)的初步方案。2009年3月,双方在“协议书”(合约)的最终方案上署名、盖章之后,在同年3月召开的日本中国学会理事会获得了承认。

上海师范大学一方实际开始日语论文的翻译工作,是在2009年1月以后。选择合适的译者、统筹翻译工作的进展、向作者发送译稿和回收修改稿、22篇论文的统稿校对,等等工作,都是由这一项目的介绍者曹峰教授以坚韧顽强的精神,克服重重困难得以完成。在此,我代表日本中国学会,向曹峰教授及各位译者,表示深厚的谢意。2009年12月,22篇论文的翻译全部完成。2010年5月,终于迎来了出版的日子。虽和当初的计划相比晚了五个月,但整个翻译过程,没有发生大的问题,顺利地实现了出版的目标,我和日中双方参与关心这个项目的人士都感到非常高兴。

日本和中国之间,在从事学术研究之际,提出问

题的方法、研究问题的方法、研究的进展方式、成果的发表方式等等,存在着各种各样的差异。对于这些问题,过去我们在没有充分理解对方的情况下,单纯地评价出好坏、判断出优劣,这样的事情并不少。但是现在,日中双方的研究者充分了解对方的研究特征,并活用于自身研究中,使自己的学问得以丰富和充实,已不仅是紧要的迫切的课题、也是比较容易展开的事情了。如果本书的出版能够有助于双方的相互了解,我将不胜欣喜。

如果能有更多的中国读者直接读到此书,对各篇论文给与认真地严厉地评判,那么,本书出版的目的就达到了。  
2010年3月

### 《日本中国学会与日本中国学会奖简介》

また本論文集に、私は日本中国学会と学会賞を紹介する記事を書きました。その内容は、以下のとおりです(訳者は曹峰教授)。

#### 日本中国学会是怎样一个学会

日本中国学会是日本研究中国文化的各种组织中综合性的、规模最大的学会。

本学会创立于1949年10月22日,正好是10月1日中华人民共和国宣告建国的三周之后,在我写这篇文章的2010年3月,日本中国学会创立已过60周年,开始下一个甲子了。不仅仅因为学会规模在日本最大、历史相对悠久,而且因为展开了高水准的研究活动,日本中国学会不光在日本学界,即便在世界学界也受到瞩目、具有很高的评价。

会员在1949年10月刚成立时是246名。之后,到1957年为500名,1976年为1000名,1985年为1500名,1996年超过了2000名。2009年拥有的会员数约在1900名。包括中国学者在内,有相当多的外国学者也加入了本会,活跃于本学会的研究活动中。如果想要成为会员,可以先进入日本中国学会的网站 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj3/index.html>,在“入会申请书”上填写有关的项目,经过一名会员的推荐(需要签名、盖章),然后将“入会申请书”寄到以下地址:邮政编码:113-0034 日本東京都文京区湯島1-4-25斯文会館内日本中国学会事務局。会费为一年7000日元。

本学会的“目的”,在会则第2条中做了以下规定:“力图促进有关中国的学术研究和普及,以及会

员间的相互交流和了解”。没有任何政治、宗教、营利的目的,是一个纯粹的学术研究团体。本学会得到日本学者联盟的代表——日本学术会议的认定和登录,由此,与IUOAS(国际东方、亚洲研究联盟,即International Union for Oriental and Asian Studies)等世界学术机构建立了合作关系。

会员的研究领域,主要在于广义上的中国思想、哲学(经学、文献学、宗教学等也包括在内),中国文学、语言学(美学、艺术学等也包括在内),任何研究领域都跨越了从古代商、周到近现代中华民国、中华人民共和国为止的所有时代。中国史学方面的会员数相对较少,并不是本学会有意排除,推进包括历史学在内的综合性的中国文化研究,正是我们的愿望。

本学会的主要研究活动的第一项,是每年10月召开一次为期两天的学术会议。借各地大学的校园为会场,每次从全国集结400名~600名的研究者。通常分为中国思想、哲学分会和中国文学、语言学分会两个分会,请总计30名以上的学者作口头发言,发言后一定组织自由讨论。包括中国学者在内的外国人当然也有作报告和你在讨论中发言的权利,实际上每年都有不少外国留学生经过一定的手续,获得了研究发表的机会。除了研究报告之外,还经常会举行一些著名学者的讲演会、与中国文化有关的大型研讨会、贵重书籍的特别展览会等等。2009年第61次会议在私立文教大学举行,2010年第62次会议预计在国立广岛大学举行,2011年第63次会议预计在国立九州大学举行。

主要研究活动的第二项,是出版发行每年一册(10月)的学术杂志《日本中国学会报》,通过邮局寄到所有会员手中。《学会报》每年约刊载20篇论文,只要是会员谁都有资格投稿。投稿的论文,会由专门的“论文审查委员会”进行严格的审查,只有审查合格的论文能够在《学会报》上刊出。因此,自己的论文在《学会报》上刊载对会员而言是相当荣誉的事,说明此论文得到了本学会内外的高度评价。此外,在刊出的年轻学者论文中,每年选出中国思想、哲学领域论文一篇和中国文学、语言学领域论文一篇,即两篇优秀论文,授予“日本中国学会奖”。不用说,这也要接受严格的审查。

本学会的出版物,此外还有《日本中国学会消息》,每年发行2~3号。内容有理事长的致辞,国内

外主要学术活动的介绍,本学会内部“大会委员会”、“论文审查委员会”、“选举管理委员会”等各种委员会的报告,隶属日本全国的大学等机构的约40个学会、研究会的活动报告及其活动予定,日本全国科学研究费的采纳情况一览,本学会预算、决算的会计报告,等等。内容极为丰富,而且近年越来越充实。每年还会发行一册(10月)《日本中国学会会员名簿》,以上出版物均邮送到全体会员手中。

本学会的管理人员计有理事长1名,副理事长2名,理事11名,监事2名,评议员60名,顾问若干名(现在有13名),干事若干名(现在有2名),各委员会委员、干事若干名(现在7个委员会,委员、干事63名)。理事长是本学会的代表,由评议员投票选出。理事会是会务的执行机关,副理事长、理事由理事长委任决定。评议员会是本学会的议决机构,评议员由全体会员投票选出。所有会员都有通过投票选举管理人员(评议员)的权利,也有被选为管理人员(评议员、理事等)的权利。

#### 日本中国学会奖是怎样一个奖项

如前所述,本学会的学术杂志《学会报》每年1次在10月发行。《学会报》所刊载论文中,仅以青年学者(原则上在40岁以下)的论文为对象加以选考,每年从中国思想、哲学领域和中国文学、语言学领域选出两篇优秀的论文,授与“学会奖”。不仅有奖状和奖金,而且被认定为优秀论文也是极高的荣誉。学会奖的选考在每个年度末的3月,由论文审查委员会和理事会举行,在10月会议的总会上,举行颁奖仪式,获奖者接受与会者的祝贺。

本学会开始设置学会奖是在1969年以后。当时称为“日本中国学会奖励赏”。这份奖金的基础来自于1967年逝世的奥野信太郎教授(庆应大学),1968年他的家人根据他生前的意志向本学会捐献了50万日元。接受这份基金之后,本学会制订了授奖对象以《学会报》上刊载论文为主,授奖者每年在两名左右,中国思想、哲学与中国文学、语言学各1名,年龄限制在40岁以下,等一系列规章制度。

第1届学会奖的选考是在1970年,以《学会报》第21集(1969年发行)的论文为对象,但最终决定是思想、哲学和文学、语言学两个领域均无获奖。因此可以说实际上学会奖始于第二年1971年。之后,到2008年第39届(对象是《学会报》第59集,2007

年发行)为止,一直在思想、哲学和文学、语言学两个领域,或其中某一个领域颁发学会奖。但遗憾的是,2009年第40届(对象是《学会报》第60集,2008年发行),思想、哲学和文学、语言学两个领域均未发现可以获奖的优秀论文,再次出现均无获奖的局面。总结这40年间的获奖论文,思想、哲学领域有27篇,文学、语言学领域有34篇,总计为61篇。

颁发学会奖时所使用资金,除上述奥野信太郎教授的50万日元外,还有1973年佐藤震二教授(九州大学)捐献的20万日元,1980年池田末利教授(广岛大学)捐献的30万日元,1994年伊藤漱平教授(东京大学)捐献的30万日元。现在这些款项合称“日本中国学会基金”,专用于学会奖的颁发。

本学会奖的获奖者,当时都是40岁以下比较年轻的研究者,今日回首再看,我们发现得奖者中有不少在受此巨大鼓励之后,更为潜心研究学问,成长为学术中坚甚至大家。当今日本著名的中国思想、哲学及中国文学、语言学研究者中,有很多都出自获奖者。进入21世纪以后的得奖者中,今后也很有可能出现大学者。从这个意义上讲,日本中国学会奖的设置,可以看作是对日本中国文化研究成功者的认可,同时,思想、哲学领域获奖论文则是现代日本中国哲学研究较高水准的代表。 2010年3月

## 終わりに

この試みが成功するか否かは、まだ判断する時期ではない。しかし、日本の中国研究を積極的に世界に発信することの必要性、それも個人個人が自分の論著について行うのではなく、日本中国学会が学会としてまとまって行うことの必要性は、大多数の会員の認めるところとなっている。

しばらくして後、この試みの成否をよく検討した上で、大きな問題がないようであれば、中国哲学だけでなく中国語学・中国文学についても色々な形で、日本中国学会として世界発信を計画してみてもよいのではなからうか。

(2010年3月擱筆)



# 各種委員会報告

## [論文審査委員会]

委員長 土田 健次郎

### I 学会報第62集応募論文の審査

2010年1月20日締め切りの応募論文は全47篇(哲学・思想部門10篇、文学・言語部門37篇)であった。なお昨年は全40篇(哲学・思想部門14篇、文学・言語部門24篇、両部門にわたるもの2篇)であった。

1月31日に、在京委員を中心に第2回論文審査委員会を開催し、例年通り、論文1篇につき3名の査読者(論文審査委員は含まない)と、1名の閲読者(論文審査委員が担当)を決めた。

3月28日に、第3回論文審査委員会を開き、査読者3名の査読結果をもとに討議し、哲学・思想部門4篇、文学・言語部門12篇の掲載を決定した。なお、昨年は哲学・思想部門6篇、文学・言語部門9篇、両部門にわたるもの1篇であった。今回は池田知久理事長、牧角悦子副理事長が陪席した。

### II 学会報第63集依頼論文執筆候補者の決定

第3回委員会において、哲学・思想部門、文学・言語部門からそれぞれ評議員1名(予備1名)、一般会員1名(予備1名)の学会報第63集依頼論文執筆候補者を決定し、6月開催の理事会に推薦することになった。

### III 学会賞候補者の決定

第3回委員会において、評議員に対して行ったアンケートをもとに審議した結果、哲学・思想部門、文学・言語部門からそれぞれ1名の学会賞候補者を決定し、6月開催の理事会に推薦することになった。

### IV 平成22年度日本学術振興会奨励賞候補者の審議

第3回委員会において、評議員に対して行ったアンケートをもとに審議した結果、今回は日本学術振興会奨励賞候補の該当者は無しとなった。

## [選挙管理委員会]

委員長 神塚 淑子

### 1. 評議員の一部交替

下記の1名の評議員が平成22年3月31日を以て退会されたため、平成20年に実施された評議員選挙の結果に基づいて1名の評議員が繰り上げ当選されました。後任の評議員の任期は平成22年4月1日より平成23年3月31日までの1年となります。

#### ①退任の評議員

松本 肇 会員

#### ②後任の評議員

林 克 会員

### 2. 平成23・24年度役員選挙

本年6月に平成23・24年度の役員選挙を行います。すでにお知らせしておりますように、選挙規約が改正され、評議員選挙の投票は従来の「10名連記」から「10名以内の連記」に変更になりました。これまでは10名を連記していなければ無効票となりましたが、今度の選挙からは10名連記していなくても(9名以下であっても)有効です。若い会員の方々にも投票しやすくして投票率の向上をはかるというのが改正の趣旨です。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

## [ホームページ委員会]

委員長 渡邊 義浩

1. 日本中国学会のホームページに論文題目の中国語訳を掲載しました(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj3/gb2312/index-c.html>、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj3/big5/index-c2.html>)。題目の中国語訳を変更される方は、[nihonchugoku.hp@gmail.com](mailto:nihonchugoku.hp@gmail.com)まで、代案をお送りください。

2. 日本中国学会報に掲載される学会展望のための自己申告をメールで受け付けております。単行本・論文の別、収録すべき項目を記載したうえで、  
哲学部門は、[nihonchugoku.tetugaku@gmail.com](mailto:nihonchugoku.tetugaku@gmail.com)  
文学部門は、[nihonchugoku.bungaku@gmail.com](mailto:nihonchugoku.bungaku@gmail.com)  
語学は、[nihonchugoku.gogaku@gmail.com](mailto:nihonchugoku.gogaku@gmail.com)  
宛にメールを送ってください。

# 国内学会消息

吉野 会 員 委 員 会

平成21年1月1日～12月31日

## ◎北海道中国哲學會

### ○研究例会

4月24日

・博士論文要旨発表会

北海道大學大學院文學研究科専門研究員

加藤 眞司

5月26日

・漢籍和刻本の美意識—正平版論語をてがかりとして—  
京都大學大學院文學研究科准教授 宇佐美文理

6月26日

・馬瑞辰『毛詩傳箋通釋』における金文及び石鼓文活用  
用法

北海道大學大學院文學研究科博士後期課程

和田 敬典

7月24日

・『春秋胡傳』に附された音註について

北海道大學大學院文學研究科専門研究員

松本 武晃

8月31日

・走向東洋：移植日本の書院制度

湖南大學岳麓書院教授 鄧 洪波

9月24日

・日本易學におけるタブー

北海道大學大學院文學研究科助教 水上 雅晴

10月30日

[特別講演會]

・唐代以前鬼靈復仇の省察與詮釋

國立臺灣大學中國文學系教授 李 隆獻

・身體時氣感

國立臺灣大學中國文學系教授 鄭 毓瑜

・陶淵明如何體現自然

國立臺灣大學中國文學系教授 蔡 瑜

12月22日

・中國哲學「學界展望」を編集して

北海道大學大學院文學研究科教授 卯 和順

○第39回研究發表大會 8月27、28日

於北海道大學

科學學國際シンポジウム—第5回“科學制と科學學”シンポジウムとの合同開催（詳細は「日本中國學會便り」2009年第2號を参照）

○機關紙發行

『中國哲學』第37號（11月30日）

（近藤浩之 記）

## ◎北海道大学中国語中国文学談話会

2月21日

第222回中国語中国文学談話会

[卒業論文発表会]

・中国のシンデレラ型物語

阿部 歩美

・潮鬼と吊死鬼——変死の思想文化から——

鷹嘴 一幸

11月7日

第223回中国語中国文学談話会

[修士論文中間発表会]

・清末探偵小説論——「探偵小説」をめぐる議論とその実践

藤井 得弘

・瞿佑と『剪灯新話』——才子佳人故事を中心に

陳 麗佳

11月28日

第224回中国語中国文学談話会

・翻訳を終えて——丸尾先生のこと

張中良（秦弓）

（加部勇一郎 記）

## ◎東北シナ学会例会

○2月例会 2月19、20日

（卒業論文・修士論文発表会、中国思想・中国文学分野のみ抜粋）



【修士論文発表会】

- ・古代中国における「勢」の概念の諸相  
小早川裕喜
- ・『三国志通俗演義』の形成過程についての一考察  
平間 雪絵

【卒業論文発表会】

- ・『詩経』における「興」についての一考察  
高橋 良知
- ・劉向『列女伝』における女性像  
壹岐 広美
- ・『真誥』の修道論について  
松田 果奈
- ・六朝から唐代にかけての文学理論と近体詩との関わりについて一病犯論の展開からみた近体詩一  
薪塩 悠

- ・長恨歌と源氏物語  
荒川 里奈
- ・『平妖伝』の研究  
岡島 君和

○4月例会 4月18日

【新入生歓迎会】

- ・いわゆる「叙景詩」はいかに生みだされたか  
佐竹 保子  
(矢田尚子 記)

◎東北中国学会大会

第58回大会 5月30、31日

第1日 於東北大学

【研究発表】

- ・再び「漢志小説家」の如淳注について  
東洋大学 阿部 兼也
- ・モンゴル諸王・道士・地方官—モンゴル時代寧海州の石刻史料の分析を通じて—  
九州大学 船田 善之

【公開講演】

- ・六朝時代における人間平等の思想  
京都大学名誉教授 吉川 忠夫

第2日 於ホテル亀屋

【研究発表】

第1分科会(文学・哲学)

- ・『管子』「九守篇」と『鬼谷子』「符言篇」—『管子』の統一的視点への手掛かり—  
東北大学 高田哲太郎
- ・『淮南子』原道篇に見える「二皇」の統治の特色  
山口大学 南部 英彦

- ・南宋尤袤本李善注『文選』について  
北海道教育大学 大橋 賢一
- ・四段落構成としての韓愈「進学解」—二つの批判とその意味—  
大東文化大学大学院 山内 良太

- ・張伯端の「性命双修」説の全真教への影響について—「性命双修」と「形神俱妙」を中心に—  
皇學館大学 松下 道信

※第2分科会(史学)は省略  
(矢田尚子 記)

◎中国哲学読書会

第163回中哲読書会 7月18日

【修士論文構想発表会】

- ・蘇軾・蘇轍間における「道」解釈の異同について  
渡邊 秀一

【博士論文構想発表会】

- ・漢魏六朝期における老子解釈の諸相と連関—『老子指帰』の再評価を通して—  
高橋 陸美

第164回中哲読書会 9月21日

【卒業論文構想発表会】

- ・『悟真篇』の思想  
金子 由佳
- ・黄宗羲の史学思想について  
豊島ゆう子  
(矢田尚子 記)

◎東北大学中国文学談話会

平成21年度 第1回中国文学談話会 7月21日

【卒業論文構想発表会】

- ・李埏『詩経伝注』の研究  
小松崎宏明
- ・村上春樹『ノルウェイの森』の中国語訳版本研究—兩岸三地の翻訳の比較—  
芳賀未来恵
- ・台湾語の各世代と地方による相違  
岡嶋 邦矩

平成21年度 第2回中国文学談話会 7月28日

【卒業論文構想発表会】

- ・対偶表現から見た『老子道德経』  
関場 美紀
- ・『聊齋志異』における幽鬼  
土田かおり

平成21年度 第3回中国文学談話会 11月14日

【卒業論文中間発表会】

- ・台湾語における世代間、地域間の発音の差異に関する研究  
岡嶋 邦矩

- ・対偶表現から見た『老子道徳経』 関場 美紀
- ・『聊齋志異』における幽鬼 土田かおり
- ・清代李埭『詩経傳註』の解釈について 小松崎宏明
- ・村上春樹『ノルウェイの森』の中国語訳版本研究—兩岸三地の翻訳の比較— 芳賀未来恵 (矢田尚子 記)

### ◎秋田中国学会

平成21年度春季 秋田中国学会第148回例会

5月23日 於秋田大学

- ・国画家張大千における伝統と創新 山本 英樹
- ・『湖南小稿』について 佐藤 章和

平成21年度秋季 秋田中国学会第149回例会

12月5日 於秋田大学

- ・日本学者的中国古代文学研究方法論—三重証拠法— 石川三佐男 (吉永慎二郎 記)

### ◎筑波中国学会

○例会

5月21日

- ・李白詩における女性の表出—「閨怨詩」を中心に— 逆瀬川彰子

6月4日

- ・『聊齋志異』の再生譚について—王刻本『聊齋志異』の〈鬼〉の分類から— 高橋 恒輔

9月10日

- ・朱熹淫詩説小考—王風「丘中有麻」の解釈をめぐる— 重野 宏一

10月1日

- ・王維の青年時代—太楽丞と楽府の関係を中心として— 齋藤 聡

11月19日

- ・『水滸伝』の四奸臣 花岡 亜希

12月17日

- ・「不見秣陵城」—「不見」の示すもの— 荒井 禮

○刊行物

『筑波中国文化論叢』第28号(10月)

(稀代麻也子 記)

### ◎中国文化学会

○例会

3月7日 於二松学舎大学

- ・台湾語の訓読字について 東京外国語大学 樋口 靖

- ・注釈中の「按(案)」という語から見えること 東京外国語大学名誉教授 高橋 均

5月2日 於二松学舎大学

- ・靈感の詩学 筑波大学 松本 肇

12月12日 於青山学院大学

- ・検定制度初期における漢文教科書 二松学舎大学非常勤講師 木村 淳

- ・聖武天皇宸翰『雑集』の二三の問題点について 東京女子大学 安藤 信廣

○大会

6月27日 於大東文化大学板橋キャンパス

[研究発表]

- ・形式と内容—書における概念の比較— 大東文化大学大学院 八木 一絵

- ・王漁洋の女性を詠ずる詩について 筑波大学大学院 荒井 禮

- ・『家礼』の空間構造と葬式仏教 常磐大学 松崎 哲之

- ・漢語南方方言にみられる訓読みについて 流通経済大学 村上 之伸

- ・『史記会注考証』と中井履軒 都留文科大学 寺門日出男

- ・アメリカ留学時期の洪深 早稲田大学 鈴木 直子

- ・美国影像—1920年代上海におけるアメリカ映画— 文教大学 白井 啓介

[シンポジウム]

「人文系中国研究の将来：視点、枠組み、そして技法の継承と発展」

基調講演「越境して活性化する中国語学」

二松学舎大学 佐藤 進

パネリスト 筑波大学 高橋 未来  
大妻女子大学 松村 茂樹

○刊行物

『中国文化』第67号(6月)

(稀代麻也子 記)

◎六朝学術学会

○例会

第19回研究例会 3月14日 於二松学舎大学

[報告]

・北齐系人士の交遊と学術活動——顔氏三代を中心に  
大東文化大学 洲脇 武志

[特別企画：自著を語る]

・『庾信と六朝文学』について

東京女子大学 安藤 信廣

・『庾信と六朝文学』をめぐって

南山大学 原田 直枝

第20回研究例会 10月3日 於二松学舎大学

[報告]

・中国古典文献における井戸の諸相——李賀「後園  
鑿井歌」解釈の試み

東京大学大学院 山崎 藍

[特別企画：自著を語る]

・『中国の文学理論』『中国の文学理論の展開]

六朝学術学会会長 興膳 宏

・批評 東京大学 齋藤 希史

○大会

第13回大会 6月14日 於斯文会館

[研究発表]

・劉勰隱秀論小考 筑波大学大学院 和久 希

・『文心雕龍』における『術』の概念と『心』につ  
いて 中部大学非常勤講師 竹澤 英輝

・「志」を詠ずる賦における家の歴史描写—陸機「遂  
志賦并序」を中心に—

京都大学大学院 青山剛一郎

・庾信の四句詩について

文教大学 樋口 泰裕

[記念講演]

・柳宗元の大中思想と六朝経学

東北大学 中嶋 隆蔵

○学術交流

8月22～28日 中国研修(組織名称「陶淵明国際  
学術討論集会訪中団」)

8月24、25日 「陶淵明国際学術検討会」(於九江  
学院)に参加。

[日本側参加者]

興膳宏(団長)・大地武雄・佐藤正光・武井満幹・  
土屋聡・福原啓郎・藤本敏雄・松浦崇・  
平井徹(秘書長)

[日本側発表者]

・陶淵明「読山海経」詩中の西王母像

六朝学術学会会長 興膳 宏

・陶淵明和謝靈運——在詩歌表現上の相似性

東京学芸大学 佐藤 正光

・陶淵明和鮑照的酒

日本学術振興会特別研究員 土屋 聡

○刊行物

『六朝学術学会報』第10集(3月末日)

(平井徹 記)

◎日本聞一多学会

第13回研究大会 7月11日

於二松学舎大学九段下キャンパス

[研究発表]

・“新青年”と修養法の近代 野村 英登

・初唐における詩人意識の形成—聞一多「四傑」を  
中心に— 牧角 悦子

○刊行物

『神話と詩』第8号(12月)

(横打理奈 記)

◎中国近現代文化研究会

第1回中国近現代文化研究会大会 8月29日

於大妻女子大学

[研究発表]

・巴金の文学作品における下層大衆の形象

一橋大学大学院博士前期課程 近藤 光雄

・阮元と西嶽華山廟碑

関東学院中学校高等学校非常勤講師

草津 祐介

- ・『調査済教科書表』と漢文教科書  
大妻女子大学非常勤講師 木村 淳
- ・上海図書館蔵『陶斎蔵碑跋尾』初探  
筑波大学大学院准教授 菅野 智明
- ・近代日本の中国書画蒐集と長尾雨山  
大阪市立美術館主任学芸員 弓野 隆之
- ・呉昌碩と日本文化界  
大妻女子大学教授 松村 茂樹

[講演]

- ・黎庶昌をめぐる人々  
群馬大学教授 石田 肇  
(松村茂樹 記)

◎国士館大学漢学会

○第44回大会 6月27日 於世田谷校舎

[学生発表]

- ・吉林大学交換留学報告 4年 園田 誠
- ・中国の若者がみた日本 2年 楊 赫

[研究発表]

- ・夏葦生の『韓流三部曲』について 藤田 梨那

[特別講演]

- ・王羲之蘭亭詩二首について  
国士館大学講師 井垣 清明

○刊行物

『国士館大学漢學紀要』第11号 (3月)  
(鷺野正明 記)

◎日本漢文小説研究会

○月例研究会 於湯島聖堂斯文会館

5月31日

- ・「瘦々亭骨皮道人」—諷刺の漢文作家—  
荒井 禮

7月26日

- ・「吉原怪談恨之恋衣」—作者に関する一考察—  
荒井 禮

10月12日

- ・文学史観と小説研究—日本漢文小説研究のあり方—  
内山 知也

12月20日

- ・齋藤竹堂と『蕃史』  
荒井 禮  
(鷺野正明 記)

◎明清文人研究会

○月例研究会 於湯島聖堂斯文会館

4月29日

- ・内山知也監修/明清文人研究会編『徐文長』白帝社4月1日出版

6月21日

- ・周道振・張月尊輯校『唐白虎全集』中国美術学院出版社2002年発行「年表」読解

9月27日

- ・周道振・張月尊輯校『唐白虎全集』中国美術学院出版社2002年発行「年表」読解

11月15日

- ・周道振・張月尊輯校『唐白虎全集』中国美術学院出版社2002年発行「年表」読解

- ・内山知也先生誕辰祝賀会

(河内利治 記)

◎早稲田大学中国文学会

○研究発表

第34回春季大会 6月20日

於早稲田大学文学部

- ・漫画紙《諷刺とユーモア》におけるプロパガンダ漫画の変遷と没落  
依田菜津子

- ・中国語動詞の意味に対する中国語母語話者と中国語学習者の認識のずれ  
中司 梢

- ・王維「終南別業」詩について——「半官半隠」を中心に——  
紺野 達也

- ・頼妖怪譚の来た道——日中比較の立場から——

増子 和男

第34回秋季大会 12月5日

於早稲田大学文学部

- ・副詞「还、再、又」が“語気”を表す機能における分析  
衣 春穎

- ・清末民初説唱における秦雪梅故事の流布  
岩田 和子

- ・『満文三国志』漢語由来語彙に見る中国近世音 鋤田 智彦
- ・詩と小説のあいだ——唐代の文人における文学観—— 赤井 益久
- 刊行物
- 『中国文学研究』第35期(12月) (紺野達也 記)

◎宋詞研究會

『唐宋名家詞選』譯注検討會

8月9、10、11日 於宮城教育大學

- ・龍榆生編『唐宋名家詞選』の譯注および検討
- 小風絮會(『唐宋名家詞選』譯注)

1月31日至12月26日 於立命館大學文學部中國文學專攻共同研究室

- ・龍榆生編『唐宋名家詞選』の譯注および検討

○刊行物

『風絮』第5號(3月)

(萩原正樹 記)

◎中唐文学会

第20回大会 10月9日

於東洋大学白山キャンパス

[研究発表]

- ・韓愈の対話作品に見られる特徴——「進学解」の解釈を通して—— 山内 良太

コメンテーター：畑村 学

- ・杜甫と白居易、身体状況の類似点と相違点

小高 修司

コメンテーター：古川 末喜

- ・元稹「樂府古題序」における「新意」と「諷諭」——元稹「將進酒」「董逃行」を中心として

長谷川真史

コメンテーター：赤井 益久

[記念講演]

- ・古人への唱和——宋代唱和詩の新たな意義

齋藤 茂

司会&コメンテーター：和田 英信

(坂井多穂子 記)

◎名古屋大学中国文学研究室

○中国文学研究室研究会

5月月例会

[研究発表]

- ・左伝の戦闘場面に対する歴代批評と研究について 竹内 航治

6月月例会

[修士論文中間報告]

- ・市河寛斎の陸游受容 —おもに田園詩を中心に— 金 明蘭

7月月例会

[修士論文中間報告]

- ・市河寛斎の陸游受容 —おもに田園詩を中心に— 金 明蘭

10月月例会

[修士論文中間報告]

- ・柳宗元の九つの傳 田中 琴恵
- ・英雄儿女小説の物語構造の特徴 —『嶺南逸史』を中心に— 花村 昭紀

11月月例会

[学部生調査発表]

- ・李白の作品における山 中野 志穂
- ・韓非子と儒家思想について 市之瀬由佳

○名古屋大学中国語學文學會第18回例会

6月27日

[特別講演]

- ・中国の近代を尋ねて 東京大学名誉教授 溝口 雄三

[研究発表]

- ・左伝の戦闘場面に対する批評と研究について 竹内 航治

○刊行物

『名古屋大学中国語學文學論集』第21輯 (竹内航治 記)

◎名古屋大学中国哲学研究会

○研究会

第51回名古屋大学中国哲学研究会研究会

3月12日

[研究発表]

・近世日本人にとっての『韓非子』とは——UCパークレー蔵『韓子迂評』を手がかりとして——

小崎 智則

第52回研究会 4月23日

[研究発表]

・何鍵の大同思想——1930年代の儒教思想の試み——

竹内 弘行

第53回研究会 6月24日

[[名古屋大学中国哲学研究論集]第8号合評会]

・佐野公治著『『景德伝灯録』を読む(続)——嵩嶽元珪禅師章に見る一説話——』

石野 幹昌

・梁音著『遼代鍍金藍花銀壺の孝子図——孝子伝図から二十四孝図へ——』

張 名揚

第54回研究会 10月21日

[卒業論文中間発表]

・王陽明の生涯と思想

牛丸みゆき

・松平定信の思想

鬼頭 孝佳

・変革期の思想について

水野 愛弓

第55回研究会 12月16日

[研究発表]

・漢代における法家思想についての再検討

小崎 智則

○講演会

10月7日

・中国道教美術史の諸問題

北京大学教授 李 焘

○刊行物

『名古屋大学中国哲学論集』第8号(3月31日)

(小崎智則 記)

### ◎京都大学中国文学会

中国文学会第24回例会

7月11日 於京都大学時計台百周年記念館

・中唐における「吏隠」の展開

二宮美那子

・美の独立と人の独立——王国維の哲学・文学論を通して

銭 隴

・陸放翁研究余話

一海 知義

○刊行物

『中国文学報』第77冊(4月)

『中国文学報』第78冊(10月)

(山本浩史 記)

### ◎中国藝文研究会

○合評会及び研究会

3月1日 研究会

於立命館大学中国文学専攻共同研究室

・春秋時代における「天命」と「大命」——「天命(命)」「大命(命)」の意義變遷が示すもの(二)

高島 敏夫

・周瑜評価の変遷について

岡本 淳子

・沈義甫(沈義父)の生平について

平塚 順良

・留滬半年経眼書

芳村 弘道

6月28日 合評会 於立命館大学

・『學林』第49號合評

8月7日 研究会

於立命館大学中国文学専攻共同研究室

・銀雀山漢簡殘簡について

石井眞美子

・敦煌唐寫本『老子義』殘卷について

村田 進

・陳祚明『采菽堂古詩選』の採録とその文學觀

鈴木 俊哉

・胡適が青木正兒先生に獻呈した『章氏遺書』の紹介——白川靜文庫の一善本——

芳村 弘道

10月25日 研究会

於立命館大学中国文学専攻共同研究室

・敦煌寫本『老子義』殘卷の思想特色

村田 進

・「白蛇記」と「白蛇伝」——説話の構造における比較——

今場 正美

・國內現藏詞譜版本考

萩原 正樹

・明代を舞臺にした短篇白話小説の中の科擧

廣澤 裕介

○刊行物

『學林』第49號(3月)

(村田進 記)

### ◎東山之會

○研究発表 於京都女子大学

2月14日

・詩人の旧居を訪ねる詩——李商隱の「過鄭廣文舊居」(詩をめぐって——)

川合 康三

3月14日

・子どもの情景—楊万里の詩について—  
浅見 洋二

7月18日

・王褒「聖主得賢臣頌」をめぐって—前漢代における  
辯論と上書と辭賦—  
上原 尉暢

9月12日

・擬作と唱和一秦觀を一例として—  
齋藤 茂

10月17日

・梁代の文學論について  
幸福 香織

11月21日

・李白と風—運ばれる音—  
中 純子

○『杼山集』譯註 2月14日至11月21日

卷一「五言奉和裴使君清春夜南堂聽陳山人彈白  
雪」至「七言勞山憶栖霞寺道素上人久期不至」  
(愛甲弘志 記)

### ◎阪神中哲談話会

第382回例会 3月21日

於関西大学アジア文化交流研究センター

・『莊子』における無為の実践と境界について  
大角 絃一  
・『醒世姻縁伝』に見られる碧霞元君信仰の一側面  
二ノ宮 聡

第383回例会 7月4日

於関西大学アジア文化交流研究センター

・方以智における測量と質測—方中通『心学宗統  
編』にみえる「比知統類」をめぐって  
齊藤 正高

第384回例会 9月26日

於関西大学アジア文化交流研究センター

・中国古代における「陰陽」概念の展開—「氣」概  
念との結びつきをめぐって—  
松井真希子  
・「魂魄」について—『莊子』と『楚辞』を中心に—  
白 雲飛

第385回例会 12月12日

於ホテルルビノ京都堀川

・人・学・酒—本田濟先生追悼座談会—  
坂出祥伸、野村茂夫、加地伸行、平木康平  
岩佐昌暉、山口久和、中村圭爾、三浦國雄  
(橋本昭典 記)

### ◎大阪大学中国学会

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/xuehui/index.htm>

○国内研究会

第9回名古屋大学・大阪大学中国学研究交流会

11月21日

於大阪大学豊中キャンパス待兼山会館

・上博楚簡『鄭子家喪』の研究—楚王故事としての  
特質について—  
金城 未来  
・『左伝』における危機の場面表現—静と動の会話  
を通して—  
竹内 航治  
・『父母恩重経講経文』にみる「孝」と「地獄」  
西川 幸宏

○国際学术交流

[国際学会(共同開催)]

11月28日(於明道大学 寒梅大樓 [台湾])

・国際学術研討会—漢字文化圏の伝統と現代—

○刊行物

『中国研究集刊』第48号 [麗号] (6月)

『中国研究集刊』第49号 [水号] (12月)

(池田光子 記)

### ◎戦国楚簡研究会

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/sokankenkyukai/>

○国内研究会合

第36回研究会 7月18～20日

於東京茅場町ビジネスセンター

・清華簡に関する情報について  
・北京・上海訪問の日程について(清華大学 劉国忠  
先生からのメール)  
福田 一也  
・炭素14年代法についての国立歴史民族博物館か  
らの回答  
浅野 裕一  
・『君人者何必安哉』釈読  
湯浅 邦弘  
・上博楚簡『鄭氏家喪』の文献的性格  
福田 一也  
・「王」と「君王」—上博楚簡における呼称につい  
て—  
草野 友子  
・上博楚簡における誤写の可能性について—上博楚  
簡『武王踐阼』を中心に—  
草野 友子  
・楚墓出土簡牘文字における短横添加字の使用状況  
—戦国簡牘文字国別研究・序説—  
福田 哲之

第37回研究会 10月11日

於東京八重洲ビジネスセンター

- ・上博楚簡『凡物流形』について 浅野 裕一
- ・中国出張報告書「清華大学竹簡と先秦思想史研究」について 湯浅 邦弘
- ・武漢大学陳偉氏著『楚地出土戦国簡冊十四種』の書評について 湯浅 邦弘
- ・汲古選書の刊行計画について

○公開講演

12月18日

於大阪大学豊中キャンパス待兼山会館

- ・郭店楚墓の造営年代について  
武漢大学教授 徐 少華
- ・上海博物館蔵戦国楚竹書の特異性  
島根大学教授 福田 哲之

○国際学術交流

[学術調査]

8月30日～9月4日

- ・北京の清華大学を訪問し、外国人研究者として世界で初めて清華大学蔵戦国竹簡を実見した。また、同大学の「出土文献研究と保護中心」で、李学勤教授、李均明研究員ほか研究者と会談した。
- ・上海の復旦大学「出土文献と古文字研究中心」を訪問し、裘錫圭教授、劉釗教授ほか研究者と会談した。

(湯浅邦弘 記)

◎中国中世文学会

○平成21年度研究会

10月31日 於広島大学文学研究科

- ・中国中世の海の認識をめぐって 高西 成介
- ・陶淵明「詠荊軻」について 松野 仁美
- ・韓愈「送窮文」について 渡辺志津夫
- ・中唐詩人の苦吟について 中木 愛
- ・「三国志物語」の形成—三顧茅廬故事を中心に—  
角谷 聰
- ・「紙銭」考 許 飛
- ・庾信の後半生—「豈知庾陵夜獵、猶是故時將軍」  
(哀江南賦)— 森野 繁夫

○例会 於広島大学文学研究科

1月29日

- ・韋応物の悼亡詩について 山田 和太

2月26日

- ・姚合の詩に見られる苦吟の要素について  
中木 愛

4月30日

- ・韓愈と唐代小説 渡辺志津夫

5月28日

- ・人から見る露、露から見える世界—鮑照の詩を中心にして—  
小西 美代
- ・中国梅州客家山歌の愛情表現 呂 詩詠

6月25日

- ・韋応物の蘇州時期の詩「郡齋雨中与諸文士燕集」について  
山田 和太

7月30日

- ・「紙銭」の考察—『太平広記』を中心に—  
許 飛

10月22日

- ・大会発表補足資料作成

11月26日

- ・韋応物の左司郎中期の詩について 山田 和太

12月17日

- ・近世における『西遊記』の受容 于 曉琪
- ・菅茶山の漢詩—『黄葉夕陽村舍詩』中の典故について—  
徐 萌

○刊行物

『中国中世文学研究』第55号 (3月)

『中国中世文学研究』第56号 (9月)

(富永一登 記)

◎広島大学中国文学研究室研究会

第148回 2月2日

[修士論文最終発表会]

- ・支遁研究 宗近 倫子

第149回 2月16日

[卒業論文最終発表会]

- ・人から見る露、露から見える世界—鮑照の詩を中心にして—  
小西 美代
- ・江戸時代における『世説新語』の受容  
小原奈津美



- ・中国古小説に見られる鳥—『太平広記』鳥の部を中心として— 吉岡 光江
- ・李煜詞研究 安部 祥子
- ・老舍『駱駝祥子』研究 広瀬安佳理
- ・彭懿『魔塔』研究—ファンタジーの構築を中心として— 奥谷 佳江
- ・李馮小説研究—英雄像の解体— 梁 思睿

第150回 5月25日

- ・雨をうたう詩について 市原 里美
- ・韋応物の終焉の状況について 山田 和大

第151回 6月29日

[修士論文最終発表会]

- ・漢訳仏典の人称代名詞の研究—二人称代名詞「仁」を中心として— 趙 英来
- ・日中における唐詩解釈異同の研究—『唐詩選国字解』を中心として— 何 薇

[修士論文中間発表Ⅱ]

- ・可能補語研究 武内 真弓

[修士論文構想発表]

- ・蕭綱詩の美人描写 馬 里
- ・『宇治拾遺物語』と六朝志怪説話の比較研究—妖怪を中心として— 劉 暢
- ・江馬細香の漢詩に関する一考察—その詩風を中心に— 彭 琦

第152回 7月31日

[卒業論文中間発表会Ⅰ]

- ・陶淵明の詩語 大島 愛子
- ・雨月物語原典研究—中国白話小説との比較を中心にして— 福田 理恵
- ・「陳奐生」系列小説研究 添田 静
- ・日本語の「た」と中国語の「了」の対照研究 高橋 彩

第153回 11月27日

[卒業論文中間発表会Ⅱ]

- ・陶淵明の詩語 大島 愛子
- ・中国白話小説研究—雨月物語との比較を中心にして— 福田 理恵
- ・「陳奐生」系列小説研究 添田 静
- ・日本語の「た」と中国語の「了」の対照研究 高橋 彩

第154回 12月18日

[修士論文中間発表会Ⅱ]

- ・蕭綱の詩に見る美人表現と描き方 馬 里
- ・『宇治拾遺物語』と六朝志怪・唐代小説との比較研究—狐説話について— 劉 暢
- ・江馬細香研究—その生涯と漢詩— 彭 琦

[修士論文構想発表]

- ・鮑照詩研究 小西 美代
- ・広東客家山歌の愛情表現—恋歌を中心に— 呂 詩詠

○刊行物

『中国学研究論集』第22号(4月)

『中国学研究論集』第23号(12月)

(富永一登 記)

◎広島大学中国思想文化学教室

第178回研究会 2月9日

[卒業論文・修士論文発表]

- ・莊子研究 魚川 葵
- ・孫子研究 卷幡 夏希
- ・『世説新語』研究 下田亞里紗
- ・孟子研究 高田 哲治
- ・王充研究—引用文から見た王充の経学観— 岡村 壽子

第179回研究会 11月12日

[卒業論文・修士論文中間発表]

- ・『莊子』の生について 高原 伴弥
  - ・『墨子』における節約思想 東 謙伍
  - ・『荀子』の「樂」と「心」 花岡 裕
  - ・林羅山における「神」と「鬼神」—江戸初期における中国思想と日本思想の葛藤— 韋 佳
- (野間文史 記)

◎山口中国学会

○例会

6月13日 於人文学部

[研究発表]

- ・荆楚文学的水性特徴

長江大学文学院教授 孟 修祥

○山口中国学会大会

12月12日 於人文学部

【講演】

・“実字”、“虚字”与“通用門”一読紅零札

中国紅樓夢学会常務理事 北京大学教授  
陳 熙中

【研究発表】

・杜甫「送高三十五書記」詩における高適批評について  
山口県立大学 川口 喜治  
(根ヶ山徹 記)

◎第55回中国四国地区中国学会

5月30日 於四国大学

【研究発表】

・雨をうたう詩について  
広島大学大学院 市原 里美

・韋応物の終焉の情況について  
広島大学大学院 山田 和大

・孟榮『本事詩』について  
広島大学 佐藤 大志

・中唐における詩人と史家—白居易「詩人不遇」説とその背景について—

宇部工業高等専門学校 畑村 学

・明治の漢学者 有井進齋  
徳島大学 有馬 卓也

【資料紹介】

・四国大学蔵『凌霄文庫』見学 於附属図書館  
(佐伯雅宣 記)

◎九州中国学会

平成21年度(第57回)九州中国学会大会

5月16、17日 於西南学院大学

5月16日

・中国における宗教の観光資源化の特徴—仏教とキリスト教を中心に—  
駄田井直子

・金履祥の書経学について—『書経注』を中心として—  
青木 洋司

・「他是去年生的孩子」の二義性について—沈家煊2008の“移情”説批判—  
山口 直人

・「意象」詞義考釈—「漢書系列」を中心に—

羊 列榮

【講演】

・庄野寿人氏と「亀陽文庫」  
町田 三郎  
5月17日

・左思「三都賦」と地方志  
栗山 雅央  
・徳宗朝楽府制作と元稹「楽府古題序」

長谷川真史

・少数民族民間文学からみる婚姻観—中国雲南省納西(ナシ)族を中心に—  
金縄 初美

・蘇軾文集の成立に寄与した四川の姻戚について  
原田 愛

・中国語の結果補語と使役義獲得  
秋山 淳  
・高校国語科における唐詩教材について

金山 真吾

・瓊浦佳話の研究に関して  
許 麗芳  
・台湾の「国語」における軽声消失傾向—「コイネ化」現象と教育による定着化の可能性について—

有働 彰子

・上海図書館蔵『鮑氏集』の資料的価値について—第二の毛校宋本『鮑氏集』—

土屋 聡

・介子推伝説と雑劇「介子推」  
土屋 育子

○刊行物  
『九州中国学会報』第47巻(5月)  
(中里見敬 記)

◎九州大学中国文学会

○中国文藝座談会

第239回 1月24日

・謝靈運と建安詩壇  
東 美緒  
・薔薇のさく詩歌  
勝本 幸

・明代の書肆とその詩作活動—福建書林劉氏を中心に—  
有木 大輔

・琉球本と福建本—『二十四孝』と『童子摭談』を例に—  
陳 正宏

第240回 2月28日

・藤原道長と『白氏文集』  
陳 翀  
・毛斧季所見宋本『鮑氏集』考  
土屋 聡

第241回 4月25日

・左思「三都賦」と地方志  
栗山 雅央

- ・徳宗朝楽府制作と元稹「楽府古題序」  
長谷川真史
- ・蘇軾文集の成立に寄与した四川の姻戚について  
原田 愛
- ・恋と女の日中文学—〈一国文学史観〉を超えて—  
諸田 龍美

第242回 7月18日

- ・白居易の応酬詩と唐代の手紙文 柳川 順子
- ・五代史故事に見える女たち—脈望館鈔本を中心に—  
福永 美佳
- ・『孔子聖蹟図』と明・張楷の図賛 竹村 則行

第243回 9月12日

- ・陸游と四川人士の交流—四川制置使兼知成都府范成大  
の治績と関連して— 甲斐 雄一
- ・宋元文学批評史上における劉辰翁の評点活動の評  
価—劉辰翁評点『李長吉歌詩』を中心に—

奥野新太郎

- ・『集注文選』の成立過程について 陳 翀
- ・『文選』諸本研究の現状と課題 神鷹 徳治

第244回 11月7日

- ・千宝における修史と志怪 雁木 誠
- ・駱賓王「帝京篇」について—唐太宗「帝京篇十首」  
を手がかりとして— 種村由季子
- ・唐宋時代における洛陽の壊滅と復興

中尾健一郎

○学会・研究会開催

東アジア漢籍交流シンポジウム in 京都

—「域外漢籍」の研究価値を考える—

11月14日 於同志社大学寒梅館

[第1部 「域外漢籍研究」の定義とその成果]

- ・作為方法的漢文化圏 張 伯偉
- ・海印寺雑板本『唐賢詩範』初探 金 程宇

[第2部 日本から見た域外漢籍研究]

- ・補遺輯佚、索隱鈎沈—東亞漢籍研究的「互補」意義  
蔡 毅
- ・『集注文選』の成立過程について 陳 翀
- ・中国文章論の受容と和文規範意識の形成  
副島 一郎

- ・羅振玉所介紹的日本漢籍与其研究 陳 捷

[第3部 中国古代文学研究と域外漢籍]

- ・日本詩文評類漢籍与中国文学批評研究  
張 健

- ・新出土唐代詩人墓誌研究 胡 可先
- ・日本古鈔本『文鏡秘府論』所録「河岳英靈集叙」  
の文献価値 戴 偉華
- ・中国宋代文学研究的現状与展望 王 水照

[第4部 総合討論]

(司会) 静永 健

○刊行物

『中国文学論集』第38号 (12月)

(大淵貴之 記)



### 第62回大会開催のお知らせと発表者募集

#### 会員各位

陽春の候、会員各位におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本中国学会第62回大会は広島大学が準備を担当し、本年10月9日(土)、10日(日)の両日に開催することになりました。

つきましては、下記の要領で研究発表者を募集いたしますので、奮って御応募くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

部会 一、哲学・思想 二、文学・語学  
三、日本漢文(日本漢学・和漢比較文学・漢文教育など)

時間 発表20分 質疑応答10分

締切 6月末日(消印有効)

◎本年は、一、哲学・思想 二、文学・語学 三、日本漢文の三部会を予定しておりますが、応募状況によっては部会の増設も考えております。

◎発表は、学術的研究の最新の成果で未公開のものに限り、発表御希望の方は、氏名(フリガナ・地区・所属)・希望発表部会を明記の上、印字した発表題目および概要(800字以内、テキスト形式の電子ファイル添付)を、締切日までに大会準備会宛にお送りください。なお執筆者による校正はありませんので、完全原稿をお願いいたします。応募者多数の場合は、やむを得ずお断りすることもございますので、御了承ください。

2010年4月

日本中国学会第62回大会準備会代表 野間 文史

〒739-8522 広島県東広島市鏡山1丁目2-3

広島大学大学院文学研究科

中国思想文化学研究室準備室内

連絡先

TEL: 082-424-6638 (市来)・082-424-6626 (野間)

FAX: 082-424-6638

E-mail: tichiki@hiroshima-u.ac.jp

#### ◎個人情報取り扱いについて

個人情報の保護に関する法律の施行により、当学会においても学会名簿記載の個人情報に関して、慎重な対応が求められるようになりました。平成17年度第2回理事会、ならびに評議員会での討議を踏まえて、平成18年度以降発行の名簿においては、記載項目のうち、住所・電話番号については、会員本人の申し出があった場合には、不掲載の措置(名簿には「不掲載」と記載)を取ることとしています。

しかしながら会員相互の連絡の便を図るという名簿本来の目的に照らすと、一方では相当の支障の生ずることも懸念されますので、特段の事情がない限り、できるだけ現状どおり記載にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、不掲載を希望される会員は、その旨を同封の会費払込取扱票の通信欄にご記入ください。

#### ◎住所変更と名簿への掲載について

住所・所属機関等の変更は、速やかに事務局までご通知ください。通知は、メール・書面もしくはファックス、振替用紙通信欄にてお願いします。10月発行の会員名簿には、8月末までにお知らせいただいた会員情報を掲載させていただきます。それ以降の変更については次年度に掲載となりますので、ご了承ください。

#### 訃報

昨年度『学会便り』第2号発行以降、次の会員が逝去されました(及びお届けのあった分)。謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

小林 茂 (関東地区) 2006年10月28日

望月真澄 (関東地区) 2009年12月17日

伊藤漱平 (関東地区) 2009年12月21日

坂田 新 (中部地区) 2009年12月23日